

海外派遣留学生

留学報告書

中国・北京大学

学部学科・研究科専攻	文化社会学部アジア学科		留学時学年	2年
留 学 先	国	中華人民共和国	大学/機関	北京大学
期 間	2025年8月3日 ~ 2025年8月30日			
	短期		計1ヶ月	

【1】参加したコースの時間数と時間割

・科目名（受講した科目を全てご記載ください）：

初級中国語口語（会話中心）、初級中国語（文法中心）

英語での中国に関する様々な内容の特別講義（任意参加）

【時間割】

時 間	月	火	水	木	金	土	日
初級中国語（口語） 8:00-9:50	○	○	○	○	○	×	Free
初級中国語（文法） 10:10-12:00	○	○	○	○	○	×	
英語特別講義 14:00-15:30	×	×	×	○	×	×	

（クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等）

クラス人数は12人でそのうち日本人は8人。他には韓国人・ロシア人・イスラエル人・アメリカ人がそれぞれ1人ずついた。口語の授業は女性の先生で、授業で扱うテーマから派生して様々な中国語の単語をスライドを使いながら教えてくれた。また毎日 wechat で1分ほど話して発音を確認する宿題があった。文法中心の授業ではより授業中の音読を重視する先生で、発音を細かく指摘してくれた。また、定期的にディクテーションでの単語テストがあった。

双方の先生の共通点として、より意欲的に発音を鍛えようと思える内容だと感じた。ディクテーションや1分間のスピーチまたはそれだけ話せる量の作文は今後の言語学習でも取り入れるようにしたい。

【3】課外活動や週末の過ごし方について教えてください。

課外活動では北京大学側が用意してくれた故宮（紫禁城）・万里の長城を訪問する文化体験ツアーに参加した。故宮では全体行動の中で現地ですでに他大学の友人と会話する場面が多かったが、万里の長城では傾斜が急でかつ悪天候だったため、博物館鑑賞や遠目からの撮影など無理をしない範囲で観光し、買い物を楽しんだ。

また、外国で慣れないことが多く疲労が溜まりやすかったため、休みの日は1人で過ごして休養にあてることが多かった。時折最低限の運動として大学や寮の近辺を散歩しながら印象に残った場所を撮影していた。また、授業を受ける中で分からないことを復習して日々の小テストの時間も取るようにしていた。

[4] 派遣先でよく使った施設について教えてください。(図書館、学生会館、スポーツ施設等)

派遣先では主に図書館を利用していた。2 日目にあったキャンパスツアーで「北京大学の図書館はアジアトップクラスの規模です」とアシスタントの方に紹介され興味を持ったので、後日友達と訪問したところ建築様式や蔵書量の膨大さ、そこに日本の本があることに感動した。それ以降は学生会館と合わせて授業後の予習・復習の場として利用していた。

また、利用したのは一度だけだが大学内の運動場の 1 つである五四籃球場も印象に残っている。ここにはサッカーやテニス、バスケットボールのコートや陸上トラックがあった。私はここで現地の友達と一緒にサッカーで汗を流し、一生に一度の思い出を作ることができた。

[5] 宿舎（寮やホームステイ）での生活について教えてください。

部屋：1 部屋 2 人で使用

様子：部屋はシャワールーム・トイレ・洗面所を含む共有スペースと個室に分かれていた。部屋で 1 人で過ごすことが多く、授業の復習や試験勉強をしたり読書や動画の視聴、音楽鑑賞などで時間を潰したりしていた。寮は完全なオートロックで顔認証システムも用意されており、何度かルームキーを忘れてしまうこともあったが概ね安心して過ごすことが出来た。

生活の細かな部分を全て自分で行うというのも初めての経験だった。洗濯は寮に洗濯機と乾燥機が共に揃っていたため不自由は無かったが、手持ちの洗剤を節約しようとした結果終盤の天気が崩れた時期に洗濯物が溜まってしまった。掃除は定期的に寮のサポートがあったがゴミを貯める癖を治せなかった。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

● 楽しかったこと：

現地で語学を懸命に学んでいく中で、友達と過ごす時間が最も楽しいと感じた。同じ東海大学の人や他大学から来た人と食事や授業の空き時間などに交流し、それによって毎日がより賑やかになり心の支えとなった。課外活動で遺跡を巡る際も友達との会話を楽しみ、写真を互いに撮影するなどして思い出を増やすことが出来た。また、王付井・北京動物園への訪問や美味しいお店を紹介してもらうなど自分 1 人では出来なかった体験をすることも出来た。楽しい話をするだけでなく、試験前は互いに支え合い、本当に困った時は真剣に相談に乗り、自分の悩みがちっぽけに感じるように励ましてくれた。本当にいい出会いが出来たと思う。

● 苦労したこと：

生活の中盤以降から春学期の分の疲労の蓄積もあってか体調を崩すことが多く、後半は満足に過ごせなかった。最初は生活範囲が狭く運動する機会も余り無かったため食事を十分に取ることが出来ず、結果として消化不良と栄養不足で倒れてしまった。薬を処方してもらい胃の症状は改善したが、今度はストレスもあって睡眠が取れなくなり更に疲労が抜けなくなってしまった。また生活の終盤は不安定な天候や中国側の事情による交通規制で外出の機会を作れず、最終試験の不安もあり一層気が滅入ってしまった。そのため最後の週は家族や友人と会話して少しでも不安を解消しながら生活するので精一杯だった。

[7] 留学の成果について教えてください

1) 語学力の向上：

語学面では生活する上で正確な意思表示を優先したため翻訳に頼ってしまう面が多かったが、生活していく中で少しずつだが自分で話せる表現が増え、翻訳した内容を中国語に書き起こした際に意味や発音をある程度理解しながら読めるようになった。また、毎日自由なテーマで1分間話すという宿題を1ヶ月続けたことで日々の授業と合わせて語彙が増え、中国語でこの単語をどう言うのか、この状況で何と言うのかを考えられるようになったと感じた。同時に中国語を話す際の心理的な壁も低くなり、最後のスピーキングの試験では身振り手振りも交えながら自分の言葉で詰まらずに話して高評価を得ることが出来た。

2) 専門知識の向上：

行く前に考えていたほどは中国の歴史や伝統文化に触れることは出来なかったが、その分今の中国への理解を深めることが出来た。留学前はどうしても中国に対して管理国家であるというイメージが強く、写真はほぼ撮れないと思っていたが実際は基本的に自由に撮影することが可能で、それ以外にも不自由を感じることはほとんど無かった。顔認証の発達に付いても最初は怖かったが生活に慣れていくと非常に便利だと感じるようになった。一方、キャッシュレスの発達については現金だけでなくクレジットカードも使えない場所もしばしばあり、こちらについてはどの支払い手段にも対応している場所が多い日本の方が好みだと考えた。

3) 自己成長など

今回の留学を通して緊急時に助けを求め、自分でも情報を得ながら行動できるようになったと感じた。不眠症気味になり2回目に体調を崩した時は一度休養を取った後自分で日本語での対応が可能な病院を調べて予約をとり、早めの受診で少しでも早く体調を回復させることが出来た。また、体調不良と合わせて精神的に疲弊し思い詰めてしまった際も現地の友人や家族、東海大学の職員の方などと現状や悩みを共有しながら気持ちを落ち着け、最後まで留学に参加することが出来た。この一連の経験を自信に変え、今後の自分や周囲の緊急時の対応の際に活かせるようにしたい。

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

実際に留学して、留学では本当に多くの準備が必要だと考えた。私は体調面で不安なことが多く、様々な状況に対応できるように薬を念入りに用意したがそれでもアクシデントが起きてしまった。この経験から、渡航前は不安がないとしても幅広い種類の市販薬を用意し、合わせてトラブルに対応できるように現地の通貨を多めに準備するようにしてほしい。

また、一緒に留学に行く人達とは内定が出た段階から連絡をとり、出発までに顔を合わせておいてほしい。今回は会う時間をうまく作れず空港で初めて会う人も居て人間関係の構築に時間がかかってしまった。現地での生活を円滑に進めるためにも準備や事前学習を一緒に行うようにしてほしい。

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

内訳			金額 (留学時の日本円)
1	短期留学者のみ	旅行会社に支払った経費(授業料、フライト代他)	380000 円
2	中期・長期留学者のみ	フライト代	
3	中期・長期留学者のみ	滞在費(寮費など)	
4	教材費		授業料に含まれる
5	保険代		
6	私生活における諸経費(食費・交通費・洗濯費・滞在等)		176830 円
7	個人的な買い物		40023 円
8	その他(現地での医療費)		34978 円
9	留学に関する費用(1 から 8 の合計)		631831 円
10	受 給 し た 奨 学 金 (奨 学 金 名 :)		
11	留学に関する費用総額(上記 9 から 10 を引いた額)		631831 円



